

事業報告

2017（平成29）年度



社会福祉法人

和歌山いのちの電話協会

－ 目 次 －

ごあいさつ	1
和歌山いのちの電話協会	3
2017年度活動報告	4
2017年度決算書	11
2017年度財産目録	12
2018年度事業計画	14
2018年度予算書	16
2017年度寄付金会費援助者一覧	17

ごあいさつ

社会福祉法人
和歌山いのちの電話協会
理事長 安田 始 弘

いつもご支援をいただいております皆様、相談員の皆様には心より感謝を申し上げます。

全国的には平成22年に自殺者数が30,000人を割り込み、平成28年には21,017人にまで減少しています。しかしながら、そのような状況の中、若年層では余り減少が見られず全国的に若年層の自殺対策の必要性が大きく取り上げられています。

ただ和歌山県を見てみると、若年層の自殺増加に加えて、中高年層でも増加が見られます。平成30年4月策定の「和歌山県自殺対策計画」の中で以下のように述べられています。「県内の40歳代男性の自殺者数と自殺死亡率はともに高い状態にあります。平成28年10月に県が実施した自殺対策に関する意識調査では、男性の中高年層の半数以上が【誰かに相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じる】と答えており、具体的な相談相手や支援者が周囲におらず、一人で悩みを抱え込むリスクが高くなる可能性があります。」

中高年層の男性とえば、仕事や家庭において大きな役割を抱えている可能性があります。そのため

立场上「弱音を吐けない」「相談できない」「助けを求められない」などの状況に陥ることが考えられます。いのちの電話では、身分を明かすことなく、相談ができますので、追いつめられる前に相談をして、孤独感をいやす一助になれる場合もあります。このように、いのちの電話に求められる役割は、数多く存在します。今後も社会要請に応えられるよう取り組むとともに、法人の安定に専心努力をしてまいります。なにとぞ一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

和歌山いのちの電話協会

- 設 立** 1985年(昭和60年)9月29日、開局
同日正午より
- 社会福祉法人認可** 1988年12月28日
- 組 織** 理事10名・監事2名・評議員16名
正会員約200名
- 相 談 員 数** 130名
2018年3月末現在
- 相談受信件数** 開局以来 累計 299,605件
2017年1月～12月末 8,817件
- 相 談 時 間** 午前10時～午後10時(年中無休)
- 電 話 台 数** 2台
- 相 談 員 養 成** 7か月の講座と3か月の実習の後、
準相談員として1年間の相談実習、
その後実績及び面接審査の結果によ
り認定された者が、相談員となる。
- 継 続 研 修** 全相談員対象 全体研修会年3回、
約半年間月1回のグループスーパ
ービジョン、その他
- 運 営** 年間予算 約500万円
財源は寄付及び賛助会員等の浄財な
どで賄っている。
- 全 国 組 織** 日本いのちの電話連盟
加盟49センター
(和歌山は25番目に設立)

2017年度 活動報告

1. 運 営

A. 理事会・評議員会

理事会 年2回、評議員会 年1回

B. 運営委員会

隔月開催 各部・班会の長にて組織、日常の活動について話し合う

C. 育成委員会

相談員の研修等に関わる事柄について企画する

D. 専門部会

総務部、広報部、養成講座部

E. 日本いのちの電話連盟の決定に基づく諸施策の実施・参加

F. 地域社会への協力

県、市、社会福祉協議会、自殺対策連絡協議会等との連携

G. 社会福祉法人としての責任遂行

2. 事 業

A. 電話相談事業

B. 全国フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」 毎月10日24時間の受信

C. 一般啓発の自殺予防公開講座の開催

D. 和歌山県自殺対策連絡協議会委員として協力 連携

3. 研 修

A. 全体研修

年3回

B. 養成講座

C. グループスーパービジョン(GSV)

全相談員対象

D. 班会

小グループ研修、電話相談員間の交流、情報交換等

E. 電話相談員全国研修会などへの参加

4. 電話相談事業

2017年度の受信件数 8,817件

在籍相談員 2018年3月現在 130名

休務者 25名

毎月の電話相談業務は、105名で行っている。

5. 会議関係

理事会(定例年)2回、評議委員会1回

育成委員会2回、運営委員会6回を開催し、相談活動・研修等が円滑に実施できた。

6. 班会活動

班会は、偶数月にAからH班が研修及び会議を開催。大きな問題もなく班会への出席率向上等に取り組み来年度も引き続き進めていく。

7. 電話相談員育成

(1) 全電話相談員対象(実習生を含む)全体研修会は年3回開催している。

(2) 一泊研修会、講演会、養成講座等の積極的な聴講の推進をおこなった。

8. 電話相談員養成講座

第33期電話相談員養成講座は、2017年5月13

日から15名の受講者で開講した。

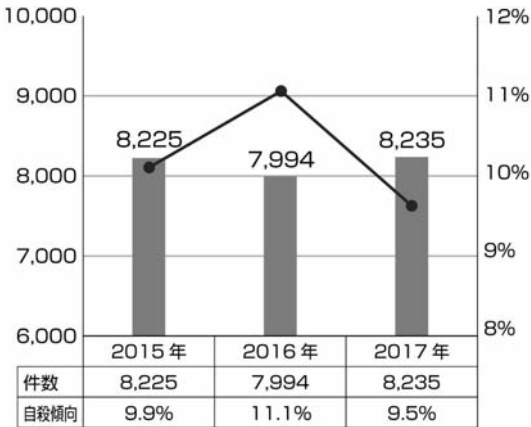
9. 財務状況

募金活動は、経済活動の低迷等で少なくなっている。共同募金会の好意で研修費等の一部を援助していただき、また、和歌山市社会福祉協議会、和歌山県自殺対策基金、JR西日本あんしん社会財団の援助もいただいた。電話相談員会員及び支援会員の方々が変わらぬご理解を賜りご厚意をいただきましたことに厚くお礼申し上げます。

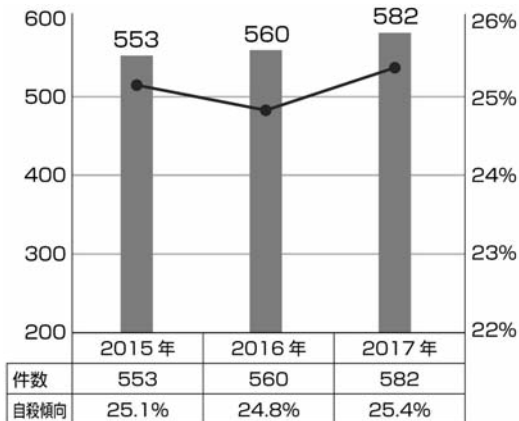
2017年1月～12月

電話相談事業

通常受信



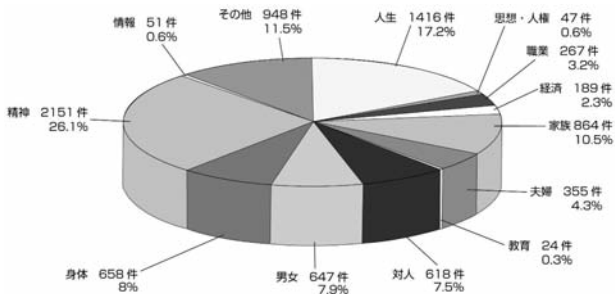
フリーダイヤル受信



通常＋フリーダイヤル計8,817件/昨年より263件増加/自殺傾向の電話は若干減少

通常受信

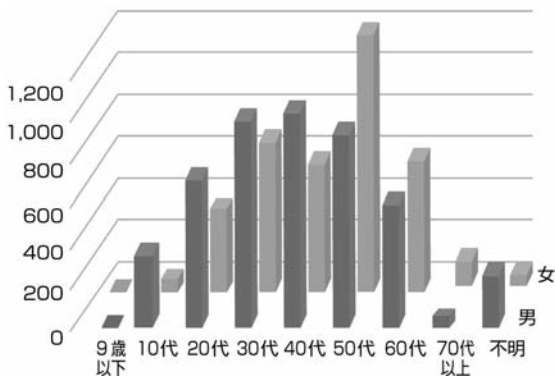
相談内容別件数と割合



大きい傾向は昨年と変化はなく、心を病む方の相談が多く、人生、家族の順番となっている

通常受信

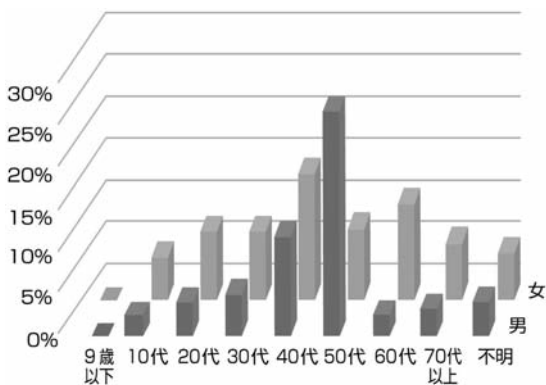
年代別受信件数の内訳



男性は女性の1.3倍受信件数は多いが、内訳では50代女性の受信件数が最も多い

通常受信

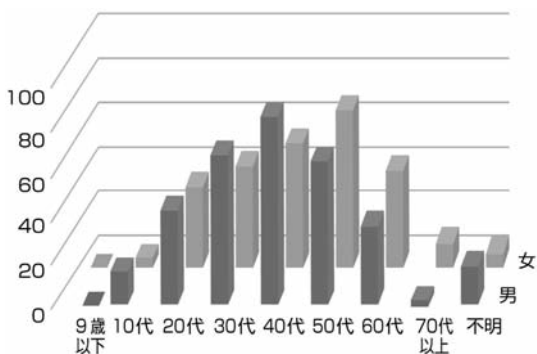
年代別自殺傾向割合の内訳



平均すれば男女比はほぼ同じ(男性10%、女性9%)だが、50代男性の自殺傾向が突出している

フリーダイヤル受信

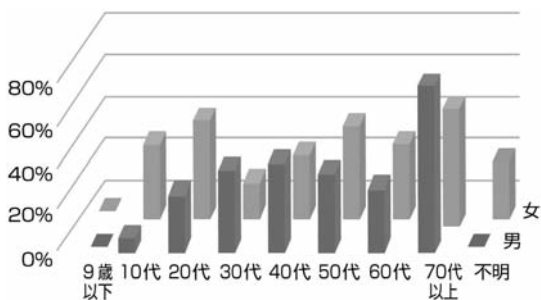
年代別受信件数の内訳



男性は女性の1.2倍受診件数は多い
内訳では40代男性の受信が最も多い

フリーダイヤル受信

年代別自殺傾向割合の内訳



男女別では女性の方が若干高い(男性24%、女性27%)が、70代以上男性の自殺傾向が突出している

2017年度 決 算 書

2018年3月31日現在

収 入

項 目	17年度予算	17年度決算	増 減
会 費 収 入	700,000	805,600	105,600
寄 付 金	300,000	1,774,000	1,474,000
事 業 収 入	1,200,000	1,110,466	▽89,534
雑 収 入	110,000	23,272	▽86,728
補 助 金	1,380,000	1,457,000	77,000
計	3,690,000	5,170,338	1,480,338
繰 越 金	3,398,430	3,398,430	0
合 計	7,088,430	8,568,768	1,480,338

▽は予算より減

支 出

項 目	17年度予算	17年度決算	増 減
事 業 費	2,330,000	1,841,638	▽488,362
管 理 費	2,210,000	2,057,132	▽152,868
雑 支 出	200,000	134,928	▽65,072
予 備 費	100,000	0	▽100,000
計	4,840,000	4,033,698	▽806,302
繰 越 金	2,248,430	4,535,070	2,286,640
合 計	7,088,430	8,568,768	1,480,338

▽は予算より減

2017年度 財産目録

2018年3月31日現在

(単位：円)

1. 資産の部		
(1) 基本財産		10,000,000
内訳	三井住友銀行 定期預金	10,000,000
(2) 運用財産		34,345,556
内訳	紀陽銀行 定期預金	17,800,000
	紀陽銀行 普通預金	4,843,108
	定額郵便貯金	9,000,000
	現金	0
	未収入金 和歌山県自殺対策緊急強化基金	676,000
什器備品		2,026,448
建物	ブース造作工事	838,769
	電気工事	321,285
	内装クロス工事	152,510
	消防設備工事	235,125
器具及び備品	印刷機	1
	電話応答訓練機	2,026
	光電話一式・外付通話	177,625
	パソコンDELL	2,604
	ノートパソコン富士通	1
	コピー機シャープ	131,250
	防犯カメラ	77,760
	ドーム型カメラ	34,992
ソフトウェア	社会福祉法人会計ソフト	52,500
2. 負債の部		308,038
3. 差引正味財産		44,037,518

上記の通り間違いありません。

和歌山いのちの電話協会

理事長

安田 始



監 査 報 告 書

社会福祉法人和歌山いのちの電話協会の平成29年度における会務及び会計監査を下記により、厳正に実施しました。

記

1 監査実施日 平成30年5月21日



2 監査資料

- (1) 会務報告書
- (2) 収支決算書・貸借対照表・財産目録
- (3) 預金通帳
- (4) 関係諸帳簿等証拠書類
- (5) 会議議事録

3 監査意見

諸帳簿及び証拠書類は、いずれも正しく整備され、収入、支出ともに適正に処理されていると認めます。

平成30年5月21日

監事 岩本 謙三 
監事 紀 俊宗 

2018年度 事業計画

日本の自殺(自死)者は、2015年24,025人、2016年21,764人、2017年21,321人と減少が続いています。私たちの電話相談による自殺予防活動が少しでも功を奏したのではないかと考えます。何故なら本当にボランティア電話相談員の皆さんが、毎日、朝から夜遅くまで電話を取って「ひとりじゃないよ、話をきかせて」と寄り添っているからです。

1. 運営・企画について

(1)理事会・評議員会

理事会 年2回、評議員会 年1回

(2)育成委員会の運営と研修

- ・電話相談員の育成を担当
 - ・全体会を3回実施
 - ・一泊研修
 - ・「電話相談のてびき」見直し作成
- * 育成員は電話相談の基本を理解し経験や知識、知恵を後進に伝える役割

(3)運営委員会

- ・2ヶ月毎に委員会を開催(第2火曜日)
18:30~20:30
- ・A班からH班(8班)の班会議の報告

(4)班会

(5)3部会で電話相談事業の補助活動

- ・総務部、広報部、養成講座部

2. 事業・研修について

(1)第34期電話相談員養成講座の開講

- ・前期講座 5月12日(土) 開講~9月1日(土)
- ・後期講座 10月6日(土) ~11月17日(土)

- ・実習 2019年1月26日(土)～3月30日(土)修了式
- ＊一泊研修 10月27日(土)・28日(日)

(2)自殺予防フリーダイヤル

毎月10日24時間体制(年12回)

(3)電話相談員認定式

3月年1回

(基本2年間主務全うし認定委員会で受理)

(4)電話相談員の全体研修

(5)公開講座 2回を予定

- ・2018年4月30日(月・祝)

「青少年支援を考えるシンポジウム」の開催

- ・2019年2月(テーマは情勢に合わせ検討)

(6)日本いのちの電話連盟との連携活動

総会及び事務局長研修会等

3. 募金活動

(1)寄付金、助成金、補助金の広報推進

- ・県自殺対策、共同募金、市福祉協議会、
JR西日本あんしん社会財団
- ・援助者からの寄付金

4. その他

- (1)和歌山県、和歌山市と自殺(自死)予防対策・
普及啓発などきめ細かい連携

2018年度 予算明細書

収 入

項 目	17年度予算	18年度予算	増 減
会 費 収 入	700,000	800,000	100,000
寄 付 金	300,000	300,000	0
事 業 収 入	1,200,000	1,200,000	0
雑 収 入	110,000	460,000	350,000
補 助 金	1,380,000	1,386,000	6,000
計	3,690,000	4,146,000	456,000
繰 越 金	3,398,430	4,535,070	1,136,640
合 計	7,088,430	8,681,070	1,592,640

前年度より▽減

支 出

項 目	17年度予算	18年度予算	増 減
事 業 費	2,330,000	2,180,000	▽150,000
管 理 費	2,210,000	2,790,600	580,600
雑 支 出	200,000	200,000	0
予 備 費	100,000	100,000	0
計	4,840,000	5,270,600	430,600
繰 越 金	2,248,430	3,410,470	1,162,040
合 計	7,088,430	8,681,070	1,592,640

前年度より▽減

2017年度にご援助頂いた会員の皆様

敬称略

暖かいご支援ありがとうございました

[い]	[し]	[は]
石田 等	下前 好美	林 千代子
市野 弘	新建電機(株) 和田至朗	株式会社春風会 三木拓哉
岩橋 延直		
岩本 謙三	[せ]	[ふ]
	瀬戸 暲子	福島 みづほ
[う]		藤田 公洋
上迫 誠朗	[た]	
上野 和久	高木 歆恒	[み]
	竹中 庸之	南出 裕子
[お]	多田 佳世子	
大根田 紀代子	田村 セツ	[む]
岡本 由美	田村 隆義	村田 溥積
小川 一夫		
	[て]	[や]
[か]	医療法人 天竹会	安田 一之
加藤 和子		安田 喜代美
河合 馨	[と]	安田 始弘
	戸井 洋木	柳瀬 智明
[き]		山本 芙美代
紀 俊崇	[な]	
北野 愛子	仲 幸雄	[わ]
北野 敏紀		渡辺 友子
橋本 二郎	[に]	
	日本基督教団東梅田教会	[その他]
[く]		匿名 (1名)
久保田 高史	[ぬ]	
	温 忍	
[さ]		
坂本 義浩		

———— ☆ 振込み先 ☆ ————

① 郵便振替 00940-9-106933

② 紀陽銀行本店 普通預金 732389

和歌山いのちの電話協会

いつでもお受けしております。

私どもの団体は、社会福祉法人として認可されておりますので、ご寄付については、法人は損金扱い、個人は所得控除の税法上優遇措置をお受けになれます。

法人役員

2018年5月現在

敬称略・順不同

理事長

安田 始 弘

理事

岩橋 延 直 田 川 元 康 桑 原 義 登

小川 一 夫 松 本 幸 男 村 田 溥 積

東 陸 広 上 野 和 久 岩 橋 秀 樹

市 野 弘

監事

岩 本 謙 三 紀 俊 崇

評議員

大根田 紀代子 竹 中 庸 之 北 野 愛 子

小 島 涉 北 野 敏 紀 中 拓 哉

下 前 好 美 橘 本 二 郎 三 木 拓 哉

藤 井 貞 雄 柳 瀬 智 明 高 木 歆 恒

戸 井 洋 木 上 迫 誠 朗 河 合 馨

加 藤 和 子

いのちの電話はボランティア活動です ご参加ください！

電話相談員として

23歳以上70歳以下の心身共に健康でボランティア心旺盛な方なら誰でも参加できます。

相談員になるには、所定の手続きと全講座受講後、実習及び研修・訓練を経て、認定委員会の認定の為の審査を受けます。ただし、研修費用は自己負担とし、電話相談活動及び協議会運営参加に対する報酬は一切ありません。

- 募集期間 毎年3月中旬～5月上旬まで
- 募集要項 事務局（073-425-3261）にお問い合わせください。

資金ボランティアとして

電話相談員の養成費、研修費、協議会運営費等550万円余りの財政資金は、相談員、支援会員、各種団体の資金ボランティアのご協力で支えられています。

個人支援会員 年間 1口 3,000円

法人支援会員 年間 1口 10,000円

（ご支援は1口以上、何口でも結構です。お気持ちでお願いします。）

※税制の優遇措置があります。

社会福祉法人

和歌山いのちの電話協会

〒640-8137 和歌山市吹上5-2-15

事務局 TEL (073) 425-3261

FAX (073) 425-3267

<http://www.w-inochi.com>

電話相談

☎073-424-5000

年中無休
受付 10:00~22:00